

連載

株式評論家 山本伸一の

兜町スタンダード

決算で明らかとなった評価余地が戻りの目安！



4年に一度行われるスポーツの祭典・オリンピック開催で世間の話題は五輪に集中。メダル獲得が随時速報で伝わり、マーケットへの関心も薄れがちだが、相場は決算シーズンのなか業績開示銘柄を中心に派手な値動きを見せている。

その決算シーズンも今週で二巡。例年の傾向からは、決算発表によつて実態評価が修正されることで、素直に「業績の良いものが買われ、悪いものが売られる」という選別物色の局面となる可能性が高い。

ポイントは、株価指数が4月以降の調整によつて、未だ年初来からは安値水準にあることだ。前回コラムでも触れたが、4月後半から5月前半の本決算時点よりも株価水準を落としている銘柄が多く、今回の第1四半期業績の結果で、事前予想となる第2四半期、通期予想に対して順調な進捗を示している銘柄には、評価余地が生まれている。好業績且つ株価指標面で割安感のある銘柄から戻りを目指していこう。

そこで弊社では、今回の決算シーズンを総括し、今後見込まれる選別物色のなか、好業績を前提に評価余地の大きい銘柄に着目した「厳選5銘柄付き緊急市況レポート」を発売する。厳選銘柄やレポートに興味を持たれた方は、弊社に直接問い合わせしてほしい。